

8月に入りました。先月28日によろやく梅雨明け宣言が聞かれたのも束の間、暦の上では一昨日に“立秋”を迎えました。昨日からは“残暑”ということになりますが、見上げる空の色も陽射しも盛夏そのもの、秋の気配などまだまだ当分の間は感じられそうにありません。そんな酷暑の中でも、汗びしょりになって元気いっぱい遊んでいる子ども達の“勇姿”にパワーを与えられている毎日ですが、夏風邪も流行っていますので体調管理には一人ひとり十分に配慮し過ごしていきたいと思っております。皆様もどうぞくれぐれもご自愛ください。

去る1日、2009年より成田市の平和啓発事業として始められた『折鶴平和プロジェクト』に今年も小泉市長より招待を受けまして、幼児クラスの子供達と共に参加して参りました。当日の様子が3日の成田ケーブルテレビでオンエアされたとのことでしたので、ご覧になられた方もいらっしゃるかと思います。子供達皆で小さな心を合わせて讃美した「ひとりの小さな手」に皆さんが笑顔と手拍子で応援してくださり、心温まるひと時となりました。一生懸命で愛らしい子供達の歌声は、会場の参加者の方々それぞれの心に平和への祈りと共に届いたことと思います。毎年こうして子供達を通して讃美歌を献げる機会を与えられていることを心から感謝しています。このイベントは、ちょうど7年前何気なく眺めていた成田市の広報に掲載されていた小さな記事『平和を願い 市民の皆様の折鶴を被爆地の広島と長崎に届けましょう！』という文字が目にとまりその趣旨に賛同したことで当時の子供達や保護者の方々に呼びかけたのが始まりでした。そしてその年がちょうどつのぶえ保育園にとって設立50周年にあたる大きな節目を迎えた時だったことでその記念事業の一環として、世界の平和と愛を祈り願い続けていこうと、50年間の歩みを機に、つのぶえ保育園の永久的な取り組みに出来ればと立ち上げました。そんなささやかな想いを神様が祝福してくださり成田市へ届けてくださったのでしょうか。保育園の皆で一生懸命に折った鶴を（初めは本当に僅かな数でしたが）市役所の担当課に持って行った際に、今に繋がる出会いを与えられました。ヤマト運輸さんが原爆投下の記念日までに長崎と広島へ無償で運んでくださるので、その無事を祈り送り出すその出立式につのぶえ保育園の子供達にぜひ参加してほしい、出来れば平和にちなんだ歌を歌ってほしいとのオファーがあり、喜んで参加させて頂いてから今回で8回目となりました。この間毎年、回を重ねる毎に、このプロジェクトの内容もどんどん充実されていきました。成田市高齢者クラブの皆さんのボランティアによって収束作業が行われさらに3年前からは『折鶴平和使節団派遣事業』として成田市市内全中学校の代表者11名の生徒が長崎で開催される平和祈念式典で千羽鶴を献納する役割を担いその出発式として行われるようになりました。戦争を知らない10代の子供達がその悲惨さを知り、平和のバトンを引き継ぐため使命感に溢れた眼差しでまっすぐに前を見つめ胸を張り誇らしい表情で並んでいる一同の姿はまさに平和への希望の光そのものを感じられ、とても頼もしく、毎年感動的です。特に今年の「平和とは信じること、認め合うこと」という団長の力強く純粋なメッセージには、胸を打たれ涙がこみ上げてきました。この国の歴史を胸に刻み、未来を想い、世界へと視野を広げ、同じ人間同士互いを信じ合い認め合う、そこから平和の精神は生まれるという優しさや熱い志を感じました。間もなく15日に71回目の終戦記念日を迎える今年、リオではオリンピック・パラリンピック開催に世界中が賑っていますが、日本ではこの直前、「社会に於ける弱者を抹殺すれば平和になる」などという人として赦されざる狂ったエゴイズムによる極めて非道な事件に国中が震撼しました。人が人を殺める権利は誰にもありません。私たちは皆互いに愛し合うため神様から命を与えられ生きることを許されています。戦争は人間による人災ですが、平和もまた人間がつくり出すものです。互いに信じ合いわかり合おうと寄り添い、人は人のために生きること、これこそが平和の実現です。今を生きる者たちの心の濁きと深い闇は、71年前命を失った人たちの無念と悲しみから離れてしまった故なのかもしれません。今一度、すべての人の心に注がれている神様の愛に皆が気づき互いを大切に優しく生き合えるよう静かに子供達と祈りたいと思います。「私たち力のある者は力のない人たちの弱さを担うべきです。自分を喜ばせるためではありません。私たちはひとりひとり隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。（ローマ15：1-2）」（石田 記）